第 50 回講演会＜2018 年 5 月 31 日開催＞

I Can. I Must. I Will.

―私にはできる、やらねばならない、私はやり遂げる

Dee Dee Trotter（執筆：髙杉忠明、ミラー成三）

■講演者……Dee Dee Trotter
（EF オリンピック・アンバサダー）
■司会……矢頭典枝（本学英米語学科教授）、柴田三揮（本学英米語学科 3 年）
■使用言語……英語
■共催……本学ボランティアセンター・体育スポーツセンター

本稿は、2018 年 5 月 31 日に神田外語大学で行われた Dee Dee Trotter 女史（以下、Trotter 氏と記す）の講演会の報告である。Trotter 氏は、アメリカ合衆国代表として、2003 年世界陸上選手権パリ大会、2004 年アテネ・オリンピック、2007 年世界陸上選手権大阪大会、2012 年ロンドン・オリンピックにおいて、4×400m リレーに出場し、金メダルを獲得した。さらにロンドン・オリンピックでは、400m トラック個人競技でも銅メダルを獲得したアメリカ女子トラック競技界屈指のスーパー・アスリートである。

Dee Dee Trotter（ディーディー・トロッター）氏

数々の輝かしい実績を残したものの、二度のオリンピックの間に氏は膝の故障にみまわれ、医師から競技継続は不可能と宣告されるなど、その道のりはけっして平坦ではなかった。こうした自らの経験を踏まえ、現在 Trotter 氏は EF オリンピック親善大使として世界各地で若者向けに、困難に立ち向かう姿勢やチャレンジをし続けることの大切さについて、講演活動を行っている。ちなみに、この EF（エデュケーション・ファースト）は、世界最大の私立語学学校で、語学留学をはじめ文化交流や外国語による専門分野での教育を推進する教育機関である。また東京 2020 オリンピック・パラリンピック大会のオフィシャル・パートナーとして社会貢献にも努めている。本学理事長・佐野元泰は、以前から EF の活動に関心を持ち、交流を深めていたことから、今回のトロッター氏の講演会が実現したという経緯がある。

Trotter 氏は講演に先立ち、学生に向けて「ただ座って話を聞いているのではなく、自ら進んで講演の参加者となるよう協力して欲しい」と訴えた。氏はそうした力強く積極的な姿勢が人生を切り開く上で重要だと考えているようだった。それを象徴的に表したものが、本講演のタイトル“I can. I must. I will.”（私にはできる、やらねばならない、私はやり遂げる）である。この信念は、氏の人生哲学の重要な部分を占めており、本講演ではなぜそうした信念を持つに至ったか？について競技人生の光と影を振り返りながら熱弁をふるった。

上述のように、氏はかつて2004年アテネ・オリンピックにおいて金メダルを獲得し、2007 年全米選手権でも優勝するなど、向かうところ敵なしの状態でスーパー・スターの道を駆け上がっていった。しかしその後、膝の怪我が発覚。医師は手術をすすめたが、手術をしても競技への復帰はほとんど不可能と宣告された。競技をあきらめきれない氏は手術を受けずに 2008 年北京オリンピックを目指し練習を続けた。しかしその後の競技会では 3 度続けて敗退した。苦しみのどん底にいる時、自分の心の中のもう一人の自分が語りかけてきたという。“You can. You must. You will.”（あなたにはできる、やらねばならない、あなたはやり遂げるのだ」と。その言葉にしたがい、氏は次のレースに参加した。それは知る人もいないような小さな町で行われた小さな大会だった。この時、氏は心の中で大きなプレッシャーを感じたという。しかし、その大会に参加することで、プレッシャーを自分の力に変えるすべを学び、自分の走りをすることができた。それから少し記録が伸び、2008 年北京オリンピックへの出場権を獲得した。しかし膝の状態は悪化し、オリンピックでの成績はまったく振るわなかった。オリンピック終了後、意を決し、膝の手術を決行した。が、その後 3 年間 1 勝もできず、過去の栄光も含めて様々なものを失った。

逆境の中にあって氏はかつての自分ではなく、新しい自分を探し始めた。輝かしい実績を達成した自分ではなく、今の自分は何をすべきなのかを思い描き、それを一つ一つ実行していった。その間、“I can. I must. I will.”は常に氏の心の中に生き続け、支えとなった。その頃からまた記録が伸びはじめ、2012 年ロンドン・オリンピックの出場が決定した。そして 3 年間 1 勝もできなかった自分が、ロンドンで「銅メダル」を獲得できたのである。「他人から見れば、これはただの“銅メダル”かもしれないが、自分にとってこのメダルは力の限りを尽くし獲得しえた“金メダル”そのものです」と誇らしげに語っていた。

学生代表で司会を務めた柴田三揮さん
（本学英米語学科 3 年）

Trotter 氏がこの講演で学生たちに訴えていたこと。それは「逆境は力の源である」ということである。自ら進んで逆境を求める人はいないだろうが、氏は逆境をいかに力に変

講演に聞き入る参加者

会場で参加者一人一人に手渡されたメダル

えられるかについて熱弁をふるった。曰く、逆境の下で生じるネガティブなプレッシャーは自らを上から押しつぶしていく。けれども、ポジティブなプレッシャーは自らを引き上げ、あと押ししてくれるものなのだ。襲いかかるプレッシャーを自らの力に変え、目標をたて、わずかでも前に進んでいくこと。それができれば、世の中にできないことはないと訴えかけた。どのような困難に置かれようとも、“I can. I must. I will.”(自分にはできる、やらねばならない、やり遂げるのだ)と自分に言い聞かせ、取り組むことが大切だ。自分を信じ、困難を前向きに捉え、一つ一つ乗り越えていくことがいかに重要であるか。トロッター氏は講演を通して学生たちに訴えかけた。

講演中、氏は学生たちも講演に参加できるよう場を盛り上げ、イニシャティブをとった。大きな身ぶり手振りを交えて、大切なメダルを学生たちに手渡し、時には笑いをとりながら、常に皆が参加者になるよう講演を進めた。実際に学生たちも、氏の発する言葉を繰り返し、楽しそうに講演に聞き入った。講演終了後、多くの学生が氏に握手や写真、サインを求めて長蛇の列を作っていた。予定の時間を過ぎていたにも関わらず、氏は一人一人に丁寧に接し、語りかける姿が非常に印象的であった。

本講演では、Trotter 氏が自分の経験をとおして、困難に遭遇した時どのような態度をとるべきか？今の自分をより良くするにはどうすべきか？自分の夢を実現するためにどうしたらよいのか？について学生たちに語りかけた。氏の語りが伝えたことは、スポーツだけでなく、学業や就職など人間生活のすべてに通ずるものだった。本講演は、参加した学生が自らの目標を定めて、それにチャレンジし、自己実現に向け力強く踏み出していく絶好の機会となった。

参加者には直筆サイン入りの冊子が配られた

講演終了後の様子

Torotter 氏を囲んで